

3 安全の確保

(1) 園舎内の安全の確保

- 保育室を中心に、園舎内の安全の点検は、職員全体で行い、安全に対する十分な配慮をすることが必要である。
特に、保育室や廊下などの施設や設備の設置に当たっては、非常時などの避難経路の確保などに十分に配慮する必要がある。

(2) 園舎外の安全の確保

- 2歳児は、興味を持ったものにすぐにかかわり遊び出すことが多く、危険を予測したり、安全に配慮したりすることは難しい。活発に動く4～5歳児に憧れの気持ちを抱きつつも、動きがぎこちないため、一緒に活動することで2歳児にとっては危険な動きに巻き込まれてしまう可能性もある。また4～5歳児と一緒に遊ぶことは、2歳児が思うように遊具が使えなかったりして、十分遊べないこともある。このような事情を踏まえ、園舎内と同様に園舎外の安全を確保する必要がある。

4 子育て支援としての受入れの内容等

2歳児の発達を踏まえ、養護的側面を重視した活動の内容を検討する必要がある。また、各幼稚園には、教育目標があり、それに基づいて3歳児以上の教育の全体計画である教育課程が編成されているので、こうした3歳児以上の幼稚園教育に円滑に移行していただけることにも留意し、2歳児にふさわしい活動の内容を検討する必要がある。

(1) 2歳児の受入れで重視したい事項

- 2歳児の発達の特徴として、複数の幼児が平行的に遊ぶ中で、受入れに従事する者との一対一の関係を基本とし、幼児同士が同じ活動と同じ場で行うことが多く、3歳児同士のように、かかわり合う、見合う、模倣し合うという関係にはなりにくい。
- こうした点も踏まえれば、2歳児の受入れに際して、以下に示す保育内容を手がかりにして活動の内容を検討する必要がある。
 - ① 食事、排泄、衣服の着替えなどの基本的な生活習慣を身に付ける。
 - ② 全身を使う遊び、手や指を使う遊びなどを繰り返して行い、いろいろな体の動きを楽しむ。
 - ③ 自分の好きなものや遊具、遊びなどを見つけ、楽しむ。
 - ④ 友達の遊びに興味を持ったり、先生や友達と一緒に遊んだりする。
 - ⑤ 園生活に必要な言葉や、受入れに従事する者の簡単な指示がわかる。

- ⑥ ごっこ遊びなどをする中で、先生や友達と言葉のやり取りを楽しむ。

(2) 家庭との連携

2歳児の受入れは、保護者の育児不安、負担の解消等の保護者のニーズに応えることになる。その際、単に保護者の子育てを肩代わりするのではなく、家庭と緊密な連携をとりながら、保護者の幼児の成長への理解や共感を高め、親として成長する機会を提供することが大切である。

ア 家庭との緊密な連携

① 保護者との信頼関係の構築

- 幼児の家庭での過ごし方やグループ等での状況等について情報交換するなど、家庭と緊密な連携をとりながら、2歳児の受入れに従事する者と保護者がともに幼児を育てるという意識をもつことが大切である。

このため、園便りや連絡帳、または活動への参観や参加、個人面談など様々な機会を使って、2歳児に関する活動の方針を家庭に伝えることなど、2歳児の受入れに従事する者と家庭の連携を深めることを積み重ね、保護者一人一人との信頼関係を築くことが大切である。

② 保護者の育児不安への対応

- 保護者の中には、幼い我が子を登園させることに不安を感じている者もあり、折に触れて、その幼児の成長や良さを伝えながら、2歳児の受入れに従事する者に対して信頼が持てるようにするとともに、保護者自身が子育てについて自信を持てるようにしていくことが大切である。
- 特に、育児不安が深刻化している場合は、必要に応じて地域の保健センターや相談機関と連携を図ったり、専門カウンセラーを活用したりすることができるよう、保護者の個々の悩みや相談に応じていく体制を整えることが望ましい。

イ 家庭の教育力の再生・向上につながる子育て支援

① 親子登園の機会の提供

- 2歳児を持つ保護者の中には、子育てがよくわからず、子どもとのかかわりがうまくできないと感じている者も少なくない。こうした保護者にとっては、2歳児の受入れに従事する者が幼児たちとかかわる姿に接することが、日頃の自分の子どもとのかかわりを振り返ったり、改めて子育ての仕方を学んだりする機会となる。

また、折に触れて子どもを通して職員や他の保護者などと

つながりをもつことは、孤立した子育てから開放され、保護者自身が、子どもの自立を促すために子離れをしていくことにもつながる。

- このようなことを踏まえ、2歳児の受入れでは、適宜、親子登園の機会をつくり、親として成長する場を提供することが考えられる。

その際、どのような親子登園を企画していくかについて、年間を見通して計画を作成することが大切である。

この場合、幼児たちと一緒にいろいろな遊びやゲームを楽しむ、自分の子どもと一緒に何かをつくる、母親だけでなく父親も一緒に活動する等、保護者や幼稚園の実態に沿って様々な工夫をすることが大切である。

また、地域の人材やボランティア、子育てNPOを活用するなどして、楽しく活動しながら子育てを学べる場をつくることも大切である。

② 子育てを話し合う場の提供

- 自我が芽生える2歳児の発達やそれに応じたかかわり方などについて、2歳児の受入れに従事する者の話を聞いたり、他の保護者と話し合ったりして、子育てを共有することは非常に大切である。

また、3歳以上の幼児の保護者との交流の場も設けながら、子育ての経験者の話を聞くことも有効である。

③ 子育てに喜びと希望を持たせる取組

- 保護者が園行事に参加することなどを促し、3歳児、4歳児、5歳児に接する機会をつくりながら、幼児期の発達や幼稚園教育についての理解が得られるようにして、子どもの成長について見通しをもち、ともに喜びや期待が持てるようにすることが大切である。

(3) 2歳児の受入れにおける計画の作成と留意事項

ア 計画の作成

- 幼児の実態に基づいて受入れの計画を作成し、計画性のある指導を行うことが大切である。

その際、子育て支援としての2歳児の受入れ内容は、3歳児の教育内容を下ろしてくるのではなく、2歳児の発達を踏まえたものとする必要がある。

- 長期の計画の作成に当たっては、全職員の理解のもとに、2歳児の活動内容を十分に検討し、幼児の実態、幼稚園や地域の実態を踏まえる必要がある。

また、幼児の発達や保護者の実態等に沿って、適宜、親子で活動する場面などを取り入れながら、親も子も楽しみに登園し、成長することにつながる計画とすることが大切である。

- また、2歳児から3歳児への移行が円滑なものとなるよう配慮をすることが大切である。
- 短期の計画では、幼児一人一人の興味や関心、発達等が異なり、個人差が大きいことに配慮し、家庭との連携を図りつつ、幼児一人一人の実態に即して作成することが大切である。
特に、登園日数が異なる幼児がいるグループ等の編成に当たる場合には、どの幼児も戸惑いが少なく、安心して過ごせるように配慮することが大切である。
また、具体的な活動の展開においては、幼児一人一人の活動に応じて、柔軟に展開していくことが必要なため、時間的にもゆとりを持った計画を立てることが大切である。
さらに、個人別の記録等もつけながら、幼児理解を深め、一人一人について発達の見通しをもって援助をすることが大切である。
- 2歳児が園行事に参加する際は、短時間の参加や、行事の一部への参加などの無理のない参加形態を検討する等、2歳児の発達の特性や興味・関心に配慮し、工夫する必要がある。
- 計画の作成に当たっては、常に、実施、点検・評価を重ねながら、幼児の実態に沿った計画を作成することが大切である。
- 2歳児の場合、年度途中での受入れや不定期的に登園する幼児、親子で登園する幼児の受入れも予想される。このため、それぞれの実態に応じて個別の計画を作成する必要がある。
- 2歳児は、特に、緊急時に活動に従事する者の指示に従った行動がとりにくいいため、避難訓練などは適宜行い、2歳児があわてず避難できるようにすることが重要である。その際、2歳児がグループ等の生活に安定する過程を見通して、年間の計画の中に位置づけるなどの配慮が必要である。

イ 留意事項

- 2歳児は、これまでの生活経験や月齢などにより発達の個人差が大きい時期であるため、幼児一人一人の発育・発達状態を把握し、一人一人の実態に沿ったきめ細かな援助を行うことが大切である。
また、して欲しいことや困ったことなど自分の思いをうまく言葉に表すことができないことも多いので、2歳児の受入れに従事する者は、ゆったりとした構えで幼児と接し安心感を持たせるとともに、幼児の表情やしぐさなどからその内面を読み取っていく姿勢を持つことが大切である。
- 日々の活動では、2歳児が健康で快適な生活を送れるように、一日の中で適切な休息や水分補給を行い、食事や排泄、衣服の着替え等の基本的な生活習慣を身に付けるための援助をきめ細かく行うことが大切である。
- 2歳児の受入れに従事する者は、幼児一人一人の発達や、興味や関心、意識の流れなどに沿って環境を構成し、幼児自らが好きな遊びを見つけ十分にそれを楽しめるような状況をつくり、遊びへの意欲を育てていくことが大切である。
また、幼児一人一人が持つ生活のリズムに沿って、食事や午睡